

山口県高P連 会報

令和7年2月15日発行

29号

発行 山口県公立高等学校PTA連合会
〒753-0072 山口市大手町2-18 山口県教育会館2F
TEL 083-923-4761 FAX 083-923-4785
https://ymg-kpren.jp/ E-mail ymgt.koup@etude.ocn.ne.jp

いあいさし

山口県公立高等学校PTA連合会

会長 田中 幸夫



余寒の候、皆様には平素より多くの子どもたちに向けたPTA活動に多大なるご尽力をいただき厚く感謝申し上げます。

本年度も県内7地区の地区別連絡協議会を全地区開催していただきありがとうございます。また、様々なご意見ご要望いただき11月8日、山口県教育委員会へ要望書として申し入れが完了しました。皆様の感じておられる要望を役員が教育長へ直接お伝えできる唯一の機会です。昨年度追加された「教員の働き方改革の推進、負担軽減」の対応、学校に通うための交通手段の確保など、重要性を可能な限り伝えさせていただきました。繁吉教育長様からは、一歩ずつでも確実に実現できるよう努めていただける旨のお返事を頂きました。

さて、山口県は、地域連携教育に非常に力を入れられており、コミュニティスクールを核とした活動が他県より優れた取り組みとして評価されていることをご存じでしょうか。

県教育委員会では、地域の中に根付く学

校を中心に、幹となり、枝葉となって社会へと羽ばたく子どもたちを育てる環境をイメージした大樹の絵が「山口県の地域連携教育の推進概念図」として描かれています。以前は、地域団体と学校で構成されていたのですが、ここにPTAが加わりました。PTAがいかに子どもたちの成長にかかわっているか、逆に必要であるということが表現されていると思います。つまり、学校内外をつなぐ唯一の要（かなめ）となるべく組織だともいえます。学校生活だけでなくParent（保護者）とTeacher（教職員）だけでよいのですが、多様性に対応する立派な成人として社会へと羽ばたけるようにするために、Community（地域社会）を意識した学校の外との繋がりは欠かせません。

教職員の先生方、保護者の皆様そして地域社会の皆様が加わり、大空を舞う鳥の様に、更に高く羽ばたき、広い視野を手に入れて、子どもたちを応援し育てていきましょう。皆さん大人が広げた大きな翼、その姿と温かく見守っているぬくもりが、子どもたちを更に成長させてくれるものと信じています。

山口県の誇る「やまぐち型社会・地域連携教育」にはPTAが不可欠です。

これからも、子どもたちの応援団として、山口県公立高等学校PTA連合会の皆様の活動が更に発展する様、今後ともご尽力を賜りたく、よろしくお願い致します。

【お知らせ】

令和7年度第78回山口県公立高等学校PTA連合会総会

日時：令和7年6月6日(金)13:30～
会場：かめ福オンプレイス（山口市湯田温泉）

令和7年度第67回中国・四国地区高P連大会 島根大会

日時：令和7年7月11日(金)
会場：くにびきメッセ（松江市）

令和7年度第74回全国高等学校PTA連合会大会 三重大会

日時：令和7年8月21日(木)・22日(金)
会場：津市産業スポーツセンター（津市）

県教育長へ要望書提出について



地区別連絡協議会（7地区）及び常任委員会から提出された要望事項と昨年度までの要望事項を再検討し、以下の内容について「令和7年度要望書」として11月8日（金）に田中会長、中村顧問、川野副会長、柴田副会長、角川副会長、宮本副会長、山田副会長から県教育委員会の繁吉教育長に提出し、意見交換を行いました。下記の各要望事項についての回答書を、3月にいただくことになっています。

要望事項

- 子どもたちの健全育成と地域連携教育の推進について
 - 学校・家庭・地域社会との連携・協働体制の確立
 - 「やまぐち型社会連携教育」の充実
- 施設、設備の充実と教育環境の整備・向上について
 - 校舎・施設・設備の老朽化への迅速な対応
 - グラウンドの排水設備の改良
 - 特別教室、実習室、準備室、体育館への空調設備の設置、トイレの様式化
 - 保健室への生理用品の充実・補充
 - ICT機器やネットワーク環境の

整備

- 教員の指導力（ICT関連を含む）の向上に向けた研修の実施
- インターネット環境のない家庭への支援・予算措置
- ネットトラブルの未然防止等
- 感染症対策の強化・維持
- 生徒の通学手段の確保と通学時の安全確保等について
 - 通学手段の確保と利便性の向上
 - 列車運休時の登校手段の確保
 - 交通安全教室等、事故防止に向けた指導の継続
 - 登下校時の安全対策、環境整備の徹底
- 県立高校の再編整備、及び特色ある学校づくりとそれに伴う教育現場への配慮支援について
 - 校舎等の部分的な老朽化対策ではなく、全面的な建替えの検討等、「夢ふくらむ再編整備」の実現
 - 学校の特色を前面に出し、質の高い高校教育が維持されるような教職員配置や学費の補助・設備投資
 - 遠距離通学生の交通手段の確保、通学に係る経費の負担軽減
- キャリア教育の推進と進学支援・就職支援の推進について
 - 「明日のやまぐちを創る」高校生就職支援事業」等、各種事業の普及
 - 仕事に対しての取組み方や、やりがいの子供たちに伝える仕組みづくりや体制づくりの推進



祝表彰

本年度、以下の各団体・個人が表彰されました。おめでとうございます。

◇文部科学大臣表彰

- （団体の部）
山口県立下関双葉高等学校PTA

◇全国高等学校PTA連合会会長表彰

- （団体の部）
山口県立熊毛北高等学校PTA（育友会）
山口県立萩高等学校PTA
- （個人の部）
山道 香奈 山口県公立高等学校PTA連合会 前副会長
（山口県立熊毛北高等学校 前会長）
奥富 智昭 山口県公立高等学校PTA連合会 前副会長
（山口県立萩高等学校 前会長）

各地区で連絡協議会を開催しました

- 岩国地区（8月5日）
主管校 岩国商業高等学校
- 柳井地区（6月26日）
主管校 柳井高等学校
- 周南地区（8月26日）
主管校 新南陽高等学校、
南陽工業高等学校
- 山防地区（8月2日）
主管校 西京高等学校、
山口松風館高等学校
- 長南地区（8月8日）
主管校 宇部西高等学校、
小野田高等学校
- 下関地区（8月7日）
主管校 山口農業高等学校、
西市分校、下関中等教育学校
- 長北地区（7月19日）
主管校 萩高等学校、
奈古分校

第66回中国・四国地区 高等学校PTA連合会大会高知大会報告

県高P連副会長(山口高等学校PTA副会長) 角川 早苗

「はばたけ若人よ 郷土の大空へ」
〜みんなあ〜が願いうげよ〜を大会テーマとし、7月12日(金)、第66回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会高知大会が、高知県立県民文化ホールにて開催されました。中国・四国地区より高等学校PTA約1000名が、山口県からは63名が参加し大いに盛り上がりました。

梅雨真ただ中、出発前夜は線状降水帯の影響により豪雨となり出発も危ぶまれましたが、移動日は時折小雨が降る程度、新幹線とバスを乗り継ぎ、無事瀬戸大橋を渡って目的地の高知へたどり着きました。大会前夜の懇親会では、自由を尊重する土佐ならではの皿鉢料理に舌鼓を打ちながら、参加者の方々と親睦を深める機会を得ました。



大会当日は天気も好転し、南海の名城として名高い高知城を眺めながら会場入りしました。

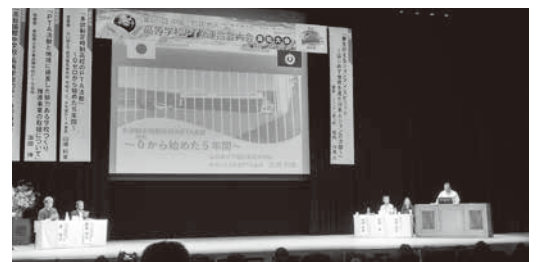
大会の前半は、「夢を叶えるジョン・マンズピリット」〜初めて世界を見た日本人ジョン万次郎〜と題して、ジョンマン語り部の垣内守男氏による講演がありました。

高知といえば坂本龍馬であった私の浅い知識でしたが、垣内氏の講演を拝聴しながらジョン万次郎の人生に惹き込まれていきました。

幼い頃に父親を亡くし貧しい漁師の子であった万次郎が、どのようにしてアメリカへ渡り、10年の歳月を経て帰国して日米の架け橋となり、東京大学の前身である開成学校の教授として英語教育に携わるまでになったかを、クイズを交えながら楽しくご講話いただきました。

垣内氏は高知南中高等学校校長時代に、山口県出身の聖路加国際病院日野原重明院長を招いて講演会を開催した際、「世界のために命を使ったジョン万次郎」という話を聞いて、それからジョン万次郎に関する出版物のほと

んどを読み込まれたそうです。そして新時代を切り開いたジョンマンの「あきらめない」「投げ出さない」「人の役に立つ」というジョンマンスピリットを高知の子どもたちの教育財産にしたいとの思いに至ったそうです。



午後からは、高知県の高校生による発表がありました。太平洋に面した町にある学校では防災に特化したカリキュラムがあり、地域と連携した防災活動を実践しているとのこと、その活動と共に、地域や生徒の変容について発表がありました。また、ジビエ部のある学校では、森林率84%という高知の陸の豊かさを守るため、捕獲された鹿やイノシシなどをジビエとして活用・商品化・販売し、得られた利益で森林保護活動を支援している部活動の発表や、模擬株式会社社員としての「国際協力」と「地域貢献」を目的とし、ラオスの学校建設活動に取り組んでいる発表などがあり、多種多様な4校の発表はどれも興味深いものでした。

最後はPTAによる研究協議がありました。山口県からは下関双葉高等学校の山崎利幸PTA会長が「多部制定時制高校のPTA活動」というテーマで発表され、平成31年に開校し生徒が自分の生活のスタイルや将来の進路希望に応じて主体的に学ぶことができる新たな教育システムにおけるPTAの在り方について協議しました。

根幹を大事にしたPTA活動は、柔軟な教育システムによって創造された生徒の多様な考え方を尊重しながら、将来を担う大切な人材の育成をサポートできる活動に昇華させて行かなければならない、と決意を新たにしました。への参加となりました。



第73回全国高等学校 PTA連合会大会茨城大会報告

県高P連副会長(秋高等学校PTA会長) 宮本 美智子

第73回全国高等学校PTA連合会大会茨城大会が令和6年8月22日・23日の二日間にわたって茨城県水戸市のアスタリアみとアリーナを主会場に開催され、全国から約6000人、山口県からは60人が参加しました。

大会前日の移動日は、ギネス世界記録に認定された世界最大120mの青銅製大仏「牛久大仏」を観覧。あいにくこの日は霞がかかって見えませんが、地上85mの展望台からはスカイツリーや富士山を見渡すことができるところのこと。想像を超える大きさとその迫力に圧倒された後は、国営ひたち



海浜公園へ移動。5月にはネモフィラの花で有名な「みはらしの丘」は、鮮やかな新緑のシーズンを迎えたふわふわコキアの丘に。ヒマワリやジニアなどの花々も咲き誇る花の楽園を楽しみました。夜は納豆で有名な水戸のおいしい地元料理を堪能。他校のPTA役員や先生方と様々な会話を楽しみながら情報交換、交流を深めることができ、とても意味のある一日となりました。

生による「花いけパフォーマンス」が行われました。制限時間わずか5分間の即興花いけバトルが繰り広げられ、見事な作品が完成すると、全力で楽しんだ生徒たちに会場からは大きな拍手が贈られました。つづいて「教育の過去・現在・未来」故きを温ねて新しきを知る」をテーマに、弘道館事務所主任研究員の小坪のり子氏による「藩校『弘道館』の教育」と題した講演1が行われました。水戸藩の学問は、水戸黄門で名高い2代藩主徳川光圀の時代から約250年をかけて歴史書「大日本史」の編纂を通じて形成されました。「彰考館」という編纂所の名前は光圀が過去を明らかにして将来を考える「彰往考来」という言葉から命名したもので、なんのために歴史を学ぶのか、それは将来を想像すること、未来をクリエイトするためであるという意味が込められており、その精神は水戸藩で代々大切にされてきました。9代藩主徳川齊昭の時代には、先見性、実践性、国家的視野が重んじられるようになり、吉田松陰、久坂玄瑞、渋沢栄一など多くの幕末の志士に影響を与えました。齊昭が創設した藩校「弘道館」は、藩校として日本最大規模の敷地を有し、江戸時代の総合大学的な学問所として他藩の藩校にも影響を与えことが紹介されました。

講演2では茨城大学教育学部教授の加藤崇英氏が「もっと学校・教育がみんなに開かれる未来を展望する」と題し、庶民の「寺子屋」とエリート「藩校」のように身分制度を前提に開かれていた江戸時代の教育から、国民形成





の小学校とエリート人材養成の大学という学校の土台ができた明治時代の教育までを説明され、藩校教育が過去の教育とすれば、現在・未来の教育はどのように展開していくのかについて、社会全体で「一人一人の子どものために」「子ども自らが、主体的に、能動的に、探し、選び、自分から学ぶことができ、子ども本位の学校・教育にしていくな課題があると解説されました。子どもたちは様々な「可能性」を持っていると同時に様々な「生きづらさ」も抱えています。そんな子どもたちの学びを高める「チーム学校」とそれを支える「教師」が求められています。そして、子ども一人一人の「可能性」を高め、「多様性」を受け入れることができる「学校」を広げていくためには、PTAの力が必要であると述べられました。

大会2日目の全体会は茨城県立大洗高等学校マーチングバンド部によるアトラクションからスタート。楽器を演奏しながら縦横にフォーメーションを展開するステージドリルは目も耳も心も奪われほど素晴らしいものでした。表彰式では山口県から文部科学大臣表彰に山口県立下関双葉高等学校PTAが、全国高等学校PTA連合会会長表彰に個人の部2名、団体の部2校が表彰されました。

記念講演では二所ノ関寛氏（第72代横綱・稀勢の里）が「人材育成の不易流行」を演題に、現役引退後、早稲田

大学大学院での学び直しを経て茨城県で二所ノ関部屋を開き、相撲の基礎運動である四股やすり足を最重要視するという伝統「不易」を大切にしつつ、土俵の数を二面に増やして効率的に稽古ができる環境整備や、1日3食9時から稽古、相撲を取らない日をつくる、若い力士には言葉よりも理解力が早いタブレット映像を使った指導を取り入れる、SNSでスケジュールを共有する等、新たな試み「流行」による力士の育成方法を説明されました。大相撲の伝統を理解しながら、科学的稽古やスポーツビジネスの要素を取り入れ、受け身ではなく自分自身で考え抜くような指導を大切にし、皆様に愛される力士、怪我に強い力士を育てたいと語られました。

少子高齢化の進行やグローバル化の進展、人工知能・AIの進化など、急激に変化する予測困難な社会においても、子どもたちの幸せのために学校と家庭、社会が力を合わせて活動するPTAの目的は変わりません。しかし、伝統を大切にすると同時に、子どもたちが夢と希望を持ち、生きる力を育むことができるよう、PTA活動も時代の変化に柔軟に対応していくことが必要であると感じています。新たな取り組みに向けてPTAの不易流行を考え、機会を持つことができた大会でした。

学校紹介

山口県立萩商工高等学校 PTA会長 大崎浩史

はじめに

本校は県北部に位置し、明治44年に萩町立明倫商業補習学校として開校し、幾多の変遷を経て、平成18年に山口県立萩商工高等学校となり、現在に至ります。来年20周年を迎える商業科と工業科を有する総合選択制の高校です。

現在設置している学科は、商業科では総合ビジネス科、情報デザイン科の2学科と工業科では機械・土木科、電気・建築科の2学科を併せて4学科になります。工業科の各科では1年次の6月まで、共通科目を学んだ後、各コースに分かれて、専門の学習に取り組みます。生徒は319人が在籍しており、校訓「質実剛健」「至誠一貫」「知行合一」のもと、日々、勉強や部活動に取り組んでおり、生徒昇降口に設置してある吉田松陰先生の像が生徒の成長を温かく見守っています。

スクール・ミッション

商業と工業の高度な専門性を追求し、地域の諸課題を未来志向で発展的に解決する学びや、他校や異なる校種の学校、地元企業等と連携・協働した実践的・体験的な教育活動などを通して、豊かな人間性やチャレンジ精神を培い、産業の持続的な発展を創造し、様々な社会的変化を乗り越えて未来を拓く人材を育成します。

学校生活

本校は、全校集会を「萩商工PR IDE」と称して、生徒会が運営しています。生徒会では、昨年度から生徒チャレンジ目標の案を作成し、全生徒に説明し、意見を聴衆して、決定しています。令和6年度の生徒チャレンジ目標は「何事にも粘り強く取り組み自分の強みを磨く」「相手の立場にたって、まごころを尽くす」「常に探究心を持ち積極的に行動に移す」に決定しました。生徒全員が積極的に学校に関わるように、生徒会が中心となって行っています。

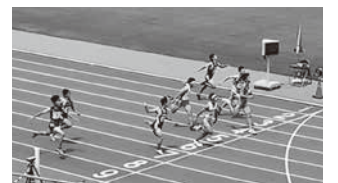
学校行事や部活動も盛んで、今年度の体育祭では、伝統の阿武川下りや万里の長城をはじめ、さまざまな

競技に生徒は全力で取り組みました。

萩商工祭では、生徒会を中心に「萩商工REBORN（みんながリア充）」と題して、保護者や地域の方をお招きし、おもてなしをすることができました。また、商業科や工業科の取組がわかるように、各科課題

研究等で製作した作品等を体験できるブースを出展して、体験して楽しんでいただくことができました。

本校には16の部活動があります。今年度は陸上競技部において、全国大会にて、種目100m、200mに出場し、200mで4位に入賞しました。少林寺拳法部においても、全国大会の女子組演武に出場し、12位という結果になりました。ラグビー部においては、中国大会に出場し、Cブロック優勝を果たしました。どの部活動も熱心に活動しています。



陸上競技全国大会



少林寺拳法全国大会



ラグビー中国大会

特色ある教育活動と地域協働

商業科の取組としては、地元中学校2校へ出向き、礼や挨拶の仕方、椅子の座り方等のビジネスマナーについての出前授業を行っています。また、総合実践の授業では、萩市の観光案内を行っています。昨年度は中学生対象に行っていました。令和6年度は海外の方を含め観光にいられた方を対象に行いました。3人1組の10班に分かれて、看板を持って声を掛けて回りました。さらに、商業の大会では、中国5県高等学校生徒商業研究発表会に出場し、萩市の見島をテーマにした「島のプライドを未来へつなぐプロジェクト」PRIDE OF THE ISLAND わたしたちの89日間」を発表し、優良賞を受賞しました。また、中国5県高等学校商業教育実技競技大会・ワープロの部では、優良賞を受賞しました。

工業科では、小中学校や地域からの依頼を受け、トイレのスリッパ用木枠やベンチ等を製作し寄贈したり、小学生へのプログラミング教育の支援や中学生に技術・家庭科の授業支援をしたりすることで、地域との連携を深める活動に取り組んでいます。また、小中学生及び保護者を対象

に鑄造を体験する「夏休みものづくり体験教室」を開催したり、小学生を対象とした「わくわく科学教室」に地元の建設関係の企業と一緒に講師として参加したり、本校の特色や専門学科の教育内容と特徴などの理解を深めてもらうよう積極的に取り組んでいます。

さらに、工業の大会では、中国地区測量技術競技大会に出場し、平板の部で3位、水準測量の部で5位となりました。また、高校生ものづくりにコンテスト中国大会・木材加工に出場し、日頃の練習の成果を発揮しました。

商工連携としては、地域の身近な課題を商業科と工業科が連携を図ることにより、地域課題の解決に向けて取り組んでいます。昨年度は防災をテーマに取り組み、令和6年度はJR山陰本線利用促進プロジェクトに取り組みました。「ミニチュア鉄道」の製作を通して、地域のイベントや萩商工祭へ出展して、JR山陰本線の利用促進に取り組みました。

進路状況

卒業後の進路状況の過去3年分を表1に示します。例年、約7割の生徒が就職しています。その内、約7割の生徒が県内就職をしています。

公務員では、山口県職員、萩市職員、長門市職員などから合格をいただいています。進学では、国公立大学をはじめ、専門学校へ多くの生徒が進学しています。

進路希望の実現に向け、先生方は日々の授業だけでなく、面接や小論文についても熱心に指導していただいています。

【表1】進路状況

進路状況		R4	R5	R6
就職	県内	62	42	53
	県外	28	16	22
大学	国公立	3	0	2
	私立	6	4	14
短期大学		4	2	1
専門学校		16	21	16
その他		1	0	0
合計		120	85	108

親師会の組織について

萩商工高校では、PTAの組織を親師会と称しています。役員について、令和4年度までは、10区域に分けられた校外区から原則として1名、地区委員を選出し、各学級から1名、学級委員を選出していました。令和

5年度からは、各クラスから2名ずつ投票し、役員を選出しています。その後、会長、副会長(3名)、監事(3名)、書記(1名)、会計(1名)を選出しています。

役員は教育講演会の企画や親師会だよりの編集・発行を行う「総務委員会」、研修視察の企画・運営や体育祭のバザーの企画・運営を行う「生活指導委員会」、学校保健安全委員会への出席や商工祭のバザーの企画・運営を行う「保健委員会」に分かれて活動しています。

親師会活動について

5月11日(土)に親師会総会を実施し、多くの保護者が参加しました。総会後は部活動懇談会や学級懇談会が行われました。

9月5日(木)・6日(金)の2日間には、就職希望者への面接指導を行いました。

9月28日

(土)に体育祭で飲料販売を行い、売り上げも順調でした。また、地域の小学生対象に、アニメや萩市にまつ



体育祭 (クイズ大会)

わるクイズ大会や1400個の餅まき・菓子まきを行い、盛大に盛り上がりました。

10月18日(金)には、教育講演会を開催しました。講師に、株式会社リージョナルマネジメントの北尾洋二様をお招きしまして、キャリア教育について、御講演いただきました。

11月30日(土)に商工祭でカレーライスの模擬店を出店しました。前日に準備、

当日に調理、販売を行い、多くの保護者の協力もあり、大好評で完売となりました。



萩商工祭 (模擬店)

おわりに

今年度の学校行事では、コロナによる制限もなくなり、生徒が主体的に活動することができ、多くの保護者や地域の方が参加する機会に恵まれました。来年度は、萩商工高校20周年を迎えます。今後も生徒の青春の1ページがより密になるように、教職員と力を合わせて、さらに学校を盛り上げていきたいと思えます。

高校生の活躍



先輩の活躍を刺激に

山口県立岩国工業高等学校 教諭 宮崎 大輔

令和6年度はパリ五輪へ卒業生が3名出場しました。フェンシングの加納虹輝選手が、東京五輪の団体金メダルに続き、エペ個人で金メダル、

団体で銀メダルに輝き、母校に凱旋報告してくれました。ハンドボールの徳田新之介選手と岡本大亮選手も出場し、熱戦を繰り広げ、惜しくも



パリ五輪フェンシング 個人エペ 金 団体 銀
加納虹輝選手



パリ五輪 出場 ハンドボール
徳田選手 岡本選手

予選通過等はなりませんでしたが、日の丸を背負った戦いの報告をされました。こうした先輩の活躍に、現役の生徒たちのみならず、卒業生、PTAや地域の方々と共に感激をいただいたところでは、こういう先輩方の活躍に勇気もらい、現役の生徒たちも日々の活動を充実させています。

科学研修部は、全国高等学校ロボット競技大会栃木大会に出場しました。24回連続の出場でしたが、入賞は来年度に持ち越しです。また、科学研修部の電気科3年の吉原楽人君が、高校生ものづくりコンテスト全国大会旋盤作業部門において、全国大会を制覇し、日本一となり、経済産業大臣賞を受賞しました。

フェンシング部の古賀万結さんはインターハイで3位、国民スポーツ大会で少年女子団体7位と活躍してくれています。ハンドボール部も令和5年の全国高校総体3位、全国選抜大会出場に負けない結果を求めて、日々汗を流しています。

また、今年度本校は創立85周年を迎えました。その記念事業として、卒業生の講演会と戦没学徒の慰霊碑を改築し、慰霊祭を行いました。生徒会を中心に企画し、学校運営協議会の委員の方にもご出席いただき開催いたしました。現在の生徒たちは、平和で、不自由なく生活できています。当時の状況等に思いをはせ、今の我々ができること、しなければならぬことを考える良い機会となりました。



岩国市長へ優勝報告



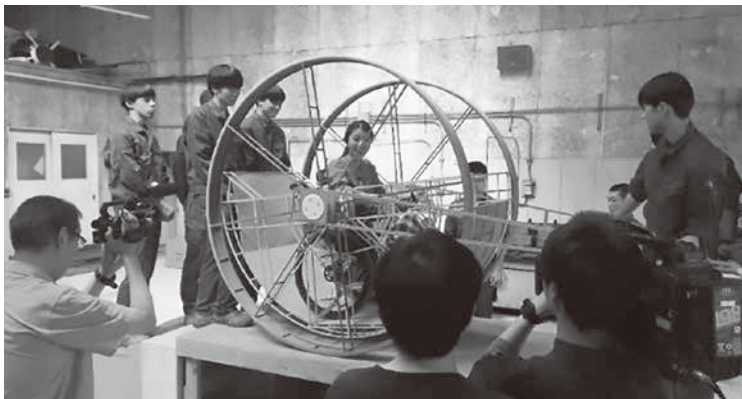
高校生ものづくりコンテスト旋盤作業部門で全国優勝を果たした
科学研修部 電気科3年 吉原楽人

この日は卒業生の元K-1の選手、トレーナーで武尊を育てた渡辺雅和氏に「最後は気合」の演題でご講演をいただきました。

「自分に対して、100%の気持ちで向かってくる人には110%の気持ちで返している。」「気合とは、怖い!と思ったときに、さらに3歩前に進む勇気のことです。」と語りました。卒業生の熱い思いに、生徒たちはまた、それぞれの目標に向かって勇気をもって歩みだしてくれるものと思います。

今年度は生徒が学校をよく宣伝してくれました。KRYラジオのMONOMONOものづくり工業高校生inやまぐちに機械科と電気科の2年生が出演しました。また、TYSの番組mixの学校チャンネル工業高校編に取り上げていただきました。木村那津美アナウンサーに生徒会長やフェンシング部・科学研修部などの多くの部活動とその取組を紹介していただき、学校の状況をお伝えすることができました。どちらの番組もアーカイブで見ることが可能です。特に「車椅子で錦帯橋を渡ろうプロジェクト」については反響が大きかったです。是非、生徒たちが長年取り組んできた成果が実現できることを願っています。

これからも卒業生の活躍に、夢を追いかけ、現役生徒たちが希望進路の実現に向けて、力、勢い、探究心を育てる学校を目指していきます。



tys mix 学校CH 工業高校編 木村那津美アナウンサーと車椅子で錦帯橋を渡ろうプロジェクト



85周年記念 戦没学徒慰霊祭

小さくてもキラリく全員が輝ける場所

山口県立岩国高等学校広瀬分校 教諭 村上 聖仁

本校は昭和16年広瀬農林学校として開校し、広瀬高等学校と名称を変え歴史を刻んできました。平成20年には岩国高等学校の分校、広瀬分校となりました。そして今春、その長い歴史が終りを迎えるようとしています。閉校までの1年間の歩みを紹介します。

令和4年5月末、現在の3年生12名が入学して二ヶ月が経とうとしていたとき、当時の校長から来年度以降の募集停止が告げられました。「中学校の後輩が来たいと言っていたのに...」「今年、入学者数が例年と比べて、自分たちは多いから大丈夫だと思っていた。」という声があがりました。実感が湧かない生徒もいました。ある生徒は、「正直、驚いた。でもこの12人で頑張っていきたい。」と前を向いていました。この募集停止が決まってから、一年半が経ち、ついに最後の1年を迎えました。

最後の1年は生徒12人、常勤教員6人の計18人でのスタートとなりました。私自身、閉校の年であるからといって大きく変える必要はないと考えていました。その一方でここまで学校を支えてくれた保護者、地域の皆様に何か学校として出来ることはないだろうかと感じるようになりました。伝統行事である「茶摘み」には地元の園児、児童をはじめ多くの方に参加していただ

き、茶葉の収穫量はここ数年で最大となりました。

文化祭では、生徒は体育館でのステージ企画、バザーや出店など一人で三役も四役もこなさなければなりません。はじめは最後までやり遂げられないのではないかと心配になりましたが、最後の文化祭にける生徒の思いは強く、12人全員が持てる力を發揮し大変記憶に残る文化祭となりました。また、PTAや地域の商工会や商店に食品バザーを出店していただき、学校、保護者、地域が一体となった文化祭になりました。

体育祭では、これまでは生徒を赤白の2つの隊に分けて実施していましたが、人数との兼ね合いもあり、生徒と参加者（保護者や卒業生、地域の皆様）が競技を通じて交流する形にしました。「戮力協心（全員で協力するという意）」のスローガンを掲げ、全18種目で交流し、生徒が勝ち越し、優勝旗を手にする事が出来ました。ここでも、ほとんどの生徒が10種目以上の競技に参加することになり、成長につながりました。またクラスの団結が強くなりました。

校内マラソン大会では、「One for All All for One」のスローガンの下、全員の走行距離で100kmを目指す取組をしました。走る事が苦手な生徒

が多い学校で無謀な挑戦かと思われましたが、それぞれが全力で取り組み、目標の100kmを大きく超える152kmを走破することが出来ました。1か月前から練習を始め、全員が走力を高めるとともに精神的にも強くなりました。またこれまで応援していただいた地域に広瀬分校が全力で取り組み姿を見せることが出来ました。走った後は保護者の皆さんから炊き出しの豚汁をいただき、全員で温かい時間を過ごすことも出来ました。

10月には同窓会を中心に「閉校イベント」を開きました。当日は卒業生、地域の方々を中心に約600人が来場され、学校への愛情や愛着を感じました。

普段の講演会等での生徒謝辞は全員が最低でも1回は経験します。また、いろいろな行事を通じて、大人数の前で発表することも少なくありません。人数が少なくても輝ける「小さくてもキラリ」というキャッチコピーのもと様々な教育活動に取り組んできました。生徒はこの「小さくてもキラリ」を体現してくれました。行事だけでなく日頃の生活から一人でも何役もこなさなければならぬことが当たり前の中で、きついこともあったと思います。そんな生徒の姿を見て、私自身もやらなければならぬという気持ちになりました。多くのことを学ばせてもらいましたが、学校自体は無くなってしまいません。学校で学んだことは無くなりません。これまで少人数で当たり前だった

たことはこれからの生活では当たり前ではないかもしれませんが。これまで以上に困難なこともあります。それでもこの学校で経験したことを活かして乗り越えて欲しいと思います。最後になりましたが、これまで広瀬分校の教育を支えてくださった保護者の皆様、同窓会の皆様、岩国市錦町の皆様、心より感謝申し上げます。広瀬分校最後の卒業生12名のますますの「成長」とこれからの錦町の「発展」を願っています。



4月 18人でのスタート



6月広校祭 一人何役もこなしました



5月茶摘み 過去最大の収穫量



11月マラソン大会 スタート



9月体育祭 全員で心をつにしました



令和6年度「高校生熟議2024」開催



令和6年10月28日(月) 田布施農工高校において開催された高校生熟議の様子について紹介します。6〜7名からなる全6グループ(グループ構成例…全学年の各クラスの「3あい(アイキュービック)委員」の生徒2名、

学校運営協議会委員等2名、PTA1名、教員2名)に分かれ、「より多くの人が校則を守るために」というテーマで、各グループの企画作成に向けて熟議が行われました。総合司会者(生徒代表)による全体進行、及び各班の



議論を促進させる役割のファシリテーター(あらかじめ2回の研修に参加した生徒)の進行により、参加者全員が意見を出し合いました。

前半(第1ラウンド)「約25分」では、校則の現状や課題について意見を出し合い、後半(第2ラウンド)「約25分」では、課題等の解決ための具体的なアイデアを出し合いました。そして最後、各グループの発表(各2〜3分)が行われ、「校則のない週間を作ってみて、より良い行動について考える」「鏡を設置し、お互いの良いところを褒め合ったり、認め合ったりする」「社会に出る準備という視点で、必要な校則や不要な校則について考える」等の提案や提案理由の説明がありました。

高校生目線や保護者・地域目線、教員目線で、参加者がそれぞれの思いを自由に述べ、共有し合いながら、現在の校則の課題に気づいたり、改善案を提案したりすることで実りの多い熟議となりました。後日、各グループが模造紙に作成した熟議のフロー図を生徒昇降口に掲示し、全校生徒・教職員で共有しました。

高P連の後援による「高校生熟議」は田布施農工高校では今回が初めての取組です。高校生熟議は、山口県や地元地域、各学校における様々な課題について高校生の視点で主体的に考えることを通して、生徒たちのコミュニケーション能力を育み、主体的思考力や社会参画意識を高めるといふことを

目的の一つとしている取組です。今後、さらに多くの学校において熟議が開催されますようご検討をお願いいたします。なお、熟議に関するお問い合わせは、高P連事務局までお願いいたします。



令和6年度
小中高PTA・校長会連絡協議会開催

この協議会は小・中・高の連携協力を図る趣旨から企画され、今年度は高P連が主管担当し、11月8日（金）に開催されました。

協議及び情報交換では「PTA活動の現状と課題」や「地域連携教育や小中高連携の現状と課題」等についての情報交換や意見交換を行いました。課題解決に向けた好事例を共有するとともに、改めて情報や意見を共有することの大切さを実感する会となりました。

今後もこの協議会が、小・中学校PTAおよび高校PTAの縦の連携強化を図り、学校・家庭・地域の連携、協働の取組をさらに充実・活性化させ「すべては子供たちのため」になる具体的な活動につながるよう、取り組んでまいりたいと思います。



見舞金給付事業

☆ 傷病見舞金

補償期間

4月1日～翌3月31日

見舞金負担金

全日制 300円

定時制 150円

被保険者

*生徒（日本スポーツ振興センターの決定に基づき給付）

見舞金（最高4万円）

香料 3万円

*保護者（PTA活動中のみ）

入院見舞金 最高3万円

香料 3万円

☆ 障害見舞金10万円

☆ 死亡見舞金10万円

各校PTAの構成員である

先生方のための補償制度

山口県公立高等学校PTA連合会
教員総合補償制度

主な補償内容（2025年2月現在の内容です。）

- ① 先生方の職務遂行に起因する法律上の損害賠償責任を補償（施設所有（管理）者賠償責任保険）
- ② 先生方の個人生活に起因する法律上の損害賠償責任を補償（普通傷害保険個人賠償責任補償特約）
- ③ 先生方のケガの24時間補償（普通傷害保険）

詳しくは下記取扱代理店・扱者

フリーダイヤル 0120-084-025

「教員総合補償制度係」までお問い合わせください。

制度引受
保険会社

AIG損害保険株式会社 中国・四国地域事業本部（広島支店）

〒730-0011 広島市中区基町12-6 AIG広島ビル TEL 082 (535) 6010

受付時間：午前9:00～午後5:00（土・日・祝日・年末年始を除く）

取扱代理店・扱者 **株式会社ベストインシュアランス NOSCO事業部**

〒730-0013 広島市中区八丁堀14-10 TEL 0120-084-025

受付時間：午前9:00～午後5:00（土・日・祝日・年末年始を除く）

【承認番号 D-007576 (2026-01)】

令和7年度 山口県ひとつくり財団 高等学校等奨学生募集のお知らせ

山口県ひとつくり財団では、向学心に富み有能な素質を有しながら、経済的理由により修学が困難な生徒に対し、奨学金の貸与(無利子)を行っています。

《出願の資格》

- 保護者等が山口県内に住所を有しており、高等学校等に在学している者
- その他団体の貸与型の奨学生でない者

《募集期間》

令和7年4月8日(火)～4月30日(水)

※出願に必要な書類の入手、提出は学校経由となります。
詳細は、学校または奨学センターにお問い合わせください。

公益財団法人 山口県ひとつくり財団
奨学センター
〒753-0072 山口市大手町2番18号
山口県教育会館内
☎ (083) 933-4770
HP <https://www.hito21.jp>

任意加入

山口県公立高等学校PTA連合会 高校生総合保障制度

2025年2月以降の内容です。

大切なお子さまのさまざまな危険にそなえます。

- ① 学校内外、土・日すべてを含む1年365日24時間補償。
(学校管理下動産補償を除く)
- ② 賠償事故に関しては
示談交渉サービス付帯(国内のみ)です。
- ③ 自転車事故でのケガの補償が、
すべてのプランで充実しています。
- ④ ケガによる入院・通院、病気による入院・手術で
10万円以下のご請求は、電話による事故報告のみで
お支払いします。

※この保障制度のパンフレットは、毎年ご進級・新入学時に学校で配付されます。
※具体的な補償内容は、プランごとに異なります。
※詳しくはパンフレットをご覧ください。
※具体的な内容については、下記、「お問合せおよび相談窓口」へ
お問い合わせください。



お問合せ

お問合せおよび相談窓口

制度内容・加入手続き、
事故についての
ご相談、住所変更、転校など

午前9:00～午後5:00(土・日・祝日・年末年始を除く)

0120-714-855

加入者サービス

- ハロー健康相談24
電話による健康・医療・ストレスに関するアドバイスをします。
- セカンドオピニオンアレンジサービス
お子さまの病状・症状の相談をお受けします。
- メンタルケアカウンセリングサービス
心の専門家による面談カウンセリングをご提供します。

※上記サービスは、補償期間(保険期間)中、引受保険会社が
ティーバック株式会社に委託してご提供します。
今後、予告なく変更・中止される場合があります。

山口県公立高等学校PTA連合会
〒753-0072 山口市大手町2-18 山口県教育会館内
TEL 083 (923) 4761 FAX 083 (923) 4785

制度引受保険会社
AIG損害保険株式会社
中国・四国地域事業本部 広島支店
〒730-0011 広島市中区基町12-6
AIG広島ビル TEL 082 (535) 6010
受付時間:午前9:00～午後5:00(土・日・祝日・年末年始を除く)
(取扱代理店) 株式会社インシュアランス ノスコ事業部
TEL 082 (228) 1222
受付時間:午前9:00～午後5:00(土・日・祝日・年末年始を除く)

全国高P連賠償責任補償制度

児童・生徒
賠償責任

※学校（PTA）単位での申し込み（年間掛金 400円×生徒数）

生徒に過失があり、他人の物を壊したり
他人をケガさせたりしたときの保険です。
自転車の賠償事故も補償！
自転車条例に対応！

P T A
賠償責任

PTA（団体）に過失があり、PTA 活動中に、
他人の物を壊したり、他人をケガさせたり、
他人から借りた物を壊したりしたときの保険です。

【事務局からのお知らせ】

山口県公立高等学校PTA連合会ホームページから、これまでに発行された
全国高P連会報、山口県高P連会報をご覧になることができます。
ぜひご覧ください。

(<https://ymg-kpren.jp/>)

令和7年度 主要行事予定

月	日	行 事
5	29(木)	令和6年度第5回常任委員会（山口県教育会館） 令和7年度第1回常任委員会（　　　　）
6	6(金)	山口県高P連総会（かめ福オンプレイス）
7	11(金)	第67回中国・四国地区高P連大会 島根大会（松江市）
	29(火)	第2回常任委員会（山口県教育会館）
8	21(木) 22(金)	第74回全国高等学校PTA連合会大会 三重大会（津市）
10	1(水)	第3回常任委員会（山口県教育会館）
R8.1	23(金)	研修会・情報交換会（会場未定）
R8.2	13(金)	第4回常任委員会（山口県教育会館）